

# 人と宇宙、人と人、そのコミュニケーションの 共通点とは？

久保博揮(一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会)

視覚障がいが見えない世界は、線ではなく、点と点で空間を認識する…。それはまるで星座を描くことに似ています。音楽を休符で演奏するように、私たちの社会も見えているものより、見えない、触れない、手に取れない「闇」に今後の時代を生きぬくヒントがあるのかもしれませんが。手に取ることができない宇宙に長年思いをはせてきた私たちが、今だからこそできるユニバーサルなコミュニケーションとは何かを共に考えます。

## 1. 久保博揮とは？一人見知りコミュニケーション講師

コミュニケーションはまず自己開示から。

視覚障がい者として、そして人見知りのコーチング講師(コミュニケーション技術の講師)として、ここでは「宇宙」という直接触れないもの、見えない部分が多いものに対して、コミュニケーションの本質から考え、私たちにとって「宇宙」がはたしてどんな存在なのか、改めて考えます。

## 2 今日テーマは？一人と宇宙の関係性

コーチングとは、質問型コミュニケーションです。ここでは、みなさんに質問を問いかけて、ご自身のなかになだけある答えを探してもらいたいと思います。

「あなたにとって宇宙とはどんな存在ですか？」

なにかに例えるとよいかもしれません。食べ物、身の回りにあるもの、親、家族、友人など。あなたにとって、宇宙とははたしてどんな存在で、どんな距離感で、どんな関係性を求めているのでしょうか。天文教育に関心の高い方が多いので、おそらく宇宙という存在は肯定的なものに例えられたのではないのでしょうか。

## 3. コミュニケーション技術の基本から考える私たちと宇宙—三つのポイント

この存在肯定できる「宇宙」というものとの関わり方をコミュニケーションの基本になぞらえて考えてみます。

### (1) 絶対否定しない(存在肯定)

「なぜ宇宙はそこにあるんだ！」と探究心から考えたとしても、責めるように否定するように思う方はいないと思います。多くの人にとって同じ距離感で同じ関係性で否定しようがないのが宇宙だと思います。

### (2) 興味関心

見えないからこそもっと知りたくなる。ずっと過去からそこに代わらずあるものとして、人間は思いをはせ

る。常に宇宙に対して興味関心を持ってきたのが私たち人類です。

### (3) 質問(問いかけ)

そして、探究心から私たちは問いかけます。「どこまで続いているんだろう?」「どんな星なんだろう?」絶対的な存在の宇宙に対しては興味関心が消えることなく、私たちは問いかけ続けられるのです。言葉を交わさなくても、そこにいる、変わらないコミュニケーションを取っている、そんな存在になっています。

では、一端立ち戻っていただき、現在、人間関係がうまくいかない人、どうしてもうまくコミュニケーションが取れない人を思い浮かべてください。

その人を否定していませんか?肯定できていますか?

その人に興味関心をあなたが持っていますか?

その人に何か問いかけをしたことがありますか?

もしかしたら、あなたからコミュニケーションを変えていくことで、今頭を悩ませているその人との関係性も、宇宙との関係性のように変化していくのかもしれませんが。宇宙という存在に対してのコミュニケーションを考えたとき、あなたの中でどんな人にとっても優しいユニバーサルなコミュニケーションが実現していけると思います。